

6年国語 一枚指導案集 「海のいのち」立松和平作

③・④場面「中学校を～共鳴させている。」「太一は～なったりした。」

本時の目標

- ・ 中学卒業を前に太一が弟子にしてくれるよう頼みに行った与吉じいさについて知る。
- ・ 太一が与吉じいさのでしになろうとしたわけについての考えをそれぞれに持ち、与吉じいさと漁の様子を読み取る。

発問・指示等	児童の応答予想	教師の組織と対応(タクト)
<p>・ ③場面を読んでください</p> <p>③場面はいつの話から始まっていますか。 太一はどこに向かいましたか。 与吉じいさってどんな人ですか。</p> <p>その人のところに何をしにいったのですか。 与吉じいさは何と答えたのですか。</p> <p>弟子になるのを断られた太一はどうしましたか。</p> <p>与吉じいさはどんな漁師でしたか 太一の子どものころの夢は何だったのですか。</p> <p>だったら、どうして一本釣り漁師である 与吉じいさの弟子になろうと考えたのでしょうか。</p>	<p>②場面のときよりも立つ児童が増えている(ことを期待したい)。 指名された児童が音読(2～3名)</p> <p>太一が中学校を卒業する年の夏 太一が卒業する前の夏 与吉じいさのところ 太一の父が死んだ瀬に、毎日一本釣りに行っている漁師。</p> <p>弟子にしてくれるように頼みに行った。 「わしも年じゃ。…もう魚を海に自然に遊ばせてやりたくなるとる。」 魚を獲るのをやめにしたい 魚を釣るのをやめにしたい 魚を釣るのをやめて自由にさせたい 漁師という仕事をやめにしたい 弟子にとるのを遠回しに断っている</p> <p>無理やり弟子になった。 「…ぼくをつえの代わりに使ってくれ。」 どうしても与吉じいさの弟子になりたかった。 どうしても与吉じいさのそばで漁を学びたかった。 一本釣りの漁師 おとうと一緒に漁に出る。 もぐり漁師になる。 もぐり漁師になっておとうと一緒に船に乗る。</p> <p>もぐり漁師ではおとうのように命を落とすかもしれないから。 → おとうが漁をしていた瀬で一本づりをしている漁師だから。 →</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から音読にチャレンジしようとする姿勢を評価する。(1.4.5班に期待) ・ やる気を感じる具体的な評価をしながら指名するように心がける。 ・ 前時の音読時と絡めて前向きな姿勢がいっそう感じられるようになった部分を見つけて評価していきたい。 ・ 与吉じいさのセリフのところまでは文章をそのまま読み取る部分なので、多くの児童が発言に向かうようながしながらしかもテンポよく進めていきたい。 ・ 与吉じいさのセリフが出てきたところで「…魚を海に自然に遊ばせる」の意味について立ち止まって考えさせたい。 ・ たくさんの言いかえができるころだと考えられるので声かけでうながす。(これまで発言の少なかった児童に期待)(発言できたひとり一人を評価する) ・ 難しいとは思いますが、この表現やそれに類するものが出たら大きく評価したい。 ・ 理由づけの発言と位置づけて評価する。 ・ つなげて出てこなかったら…つまりどんな漁師になるのが夢だったの？ ・ おとうをめざしたかったんじゃないの？ ・ もぐり漁師でなくてもいいの？

発問・指示等	児童の応答予想	教師の組織と対応(タクト)
<p>与吉じいさの弟子になった太一は一緒に漁に出ましたね。瀬に着いたら与吉じいさはどうしましたか。それから…すると…</p> <p>与吉じいさの漁の様子を見て太一はどう感じたと思いますか。</p> <p>④場面の予告 太一は～ブリになったりした。</p>	<p>おとうがもぐり漁師では1番だったから自分は一本づりで一番になろうとした。</p> <p>おとうよりもすぐれたもぐり漁師はいないので一本づりですぐれた与吉じいさにした。</p> <p>着いたらすぐに、小イワシをつり針にかけて水に投げる。</p> <p>むだな動きがない感じ。</p> <p>ゆっくりと糸を手繰っていく。</p> <p>50cmもあるタイが上がってきた。</p> <p>バタバタ、バタバタとタイが暴れて尾で甲板を打つ音が船全体を共鳴させている。</p> <p>うでのいい漁師なんだと感じた。一本釣りの名人だなと感じた。この人の弟子になって正解だったなと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「瀬に着くや」という表現から与吉じいさの手際よさを感じさせたい。 ・「50cmもある」という表現から大物のタイであることに気づかせたい。 ・与吉じいさの弟子になるという自分の選択が正しかったという思いを出させてから、すぐにつり糸をにぎらせてもらえなかったところに進みたい。
<p>・④場面を読んでください</p> <p>太一もすぐにつり糸をにぎらせてもらえましたか。</p> <p>どんな仕事をさせてもらいましたか。</p> <p>つりをしながら与吉じいさはどんな話を語ってくれましたか。</p> <p>これは独り言ですか。</p> <p>なぜ独り言のように語ったの。</p>	<p>③場面のときよりも立つ児童が増えている(ことを期待したい)。 指名された児童が音読(2~3名)</p> <p>なかなかつり糸をにぎらせてもらえなかった。</p> <p>つり糸にえさをつける仕事。</p> <p>上がった魚からつり針を外す仕事。</p> <p>「千びきに1びきでいいんだ。千びきいるうち1びきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」</p> <p>独り言のようにと書いてあるから独り言ではない。</p> <p>聞かせてくれたと書いてあるから、太一のために語っている。</p> <p>教えとしておしつけるのではなく感じ取ってほしいことだった。</p> <p>とても大切なことだから自分で考えられるようにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から音読にチャレンジしようとする姿勢を評価する。(1.4.5班に期待) ・やる気を感じる具体的な評価をしながら指名するように心がける。 ・前時の音読時と絡めて前向きな姿勢がいっそう感じられるようになった部分を見つけて評価していきたい。 ・つまらない仕事のように子どもたちは感じるかも知れない。 ・どうしてこの仕事しかさせてもらえなかったかを考えながら実は大切な仕事であることにも気づかせたい。